

# 平成22年度の鳥取県立博物館

## 1 総 論

昨年度から始めた企画展開催中の開館時間延長の取組（4月～10月の土・日・祝日のみ午後7時まで）も定着してきており、特に夏休み期間中の企画展では家族連れにゆっくり楽しんでいただけた。また、初めて託児サービスも行い、乳幼児等目の離せないお子さんのいる世代にも安心して企画展を楽しんでいただけるよう取り組んだ。

自然、人文、美術の各分野で実施した計5本の企画展では、新たな来館者層の掘り起こしを狙って斬新なデザインのポスター・チラシを考案するとともに、子ども向けのパンフレットも作成した。また、展示についても、変化と開放感のある効果的なレイアウトを工夫するなど新しい挑戦も行った。

4月に山陰海岸ジオパークの拠点施設としてリニューアルオープンした山陰海岸学習館の入館者数は飛躍的に伸び、子どもたちを始め県内外の多くの方々にジオパークの魅力について知っていただく機会を提供することが出来た。また、地学担当学芸員を新たに配置し、地学系講座等の充実に取り組んだ結果、10月の世界ジオパークネットワーク加盟登録に貢献した。

### (1) 組織

昨年度に引き続き、緊急雇用創出事業（商工労働部所管）として、博物館資料の整理や電子化等を進める作業を補助する非常勤職員を4名雇用した。

### (2) 資料の収集・調査研究

自然部門では大山を中心とした貴重な昆虫標本などの寄贈を受けた。また、鳥取県沿岸の漂着動物や昆虫の地理的変異などに関する調査研究を実施し、その論文を当館の研究報告や国際学術誌に発表した。

人文部門では企画展「海と生きる」の調査を通じて、県内各所に残る海事関係資料を確認、収集し、展示の中で広く紹介した。

美術部門では、企画展に関する調査を行うとともに、鳥取県の美術に関する調査を継続して行い、前田寛治「鳥打帽の男」や辻晋堂「顔（寒拾）」、島田元旦「群鹿群鶴図屏風」などを新たに収集した。

### (3) 展示

企画展5回（自然分野1回、人文分野1回、美術分野3回）を開催し、博物館全体（山陰海岸学習館を含む。）の事業に11万人を越す来館者があった。

#### 〈企画展の概要〉

自然分野：史上最大のシーラカンス復元骨格や数百点の実物魚類化石資料を中心とした巡回展。

当館独自のタッチング資料や化石パズル、幼児コーナー等を導入し、親しみやすい展示とした。

人文分野：当館では初めて江戸時代の鳥取の海の歴史を紹介。期間中日本海新聞で特別連載4回、県内3カ所（東・中・西部）で学芸員による講演会の開催、子ども向けパンフレットの作成等、広報普及に努めた。

美術分野：江戸時代の鳥取県を代表する画家、世界的にも有名な鳥取県出身の彫刻家（巡回展）、日本を代表するイラストレーターの、三つの異なったテーマの展覧会を開催。展示にも工夫を凝らし、本県出身及びゆかりの芸術家の功績をわかりやすく紹介した。

山陰海岸学習館の展示リニューアルでは、新たに制作した模型を含む地学資料36点と動物資料95点とともに、本館から多くの標本資料を借用し、山陰海岸ジオパークの取り組みや魅力についてわかりやすく伝える内容に更新した。

#### (4) 教育普及

県民の生涯学習を支援するため、館内外での講演会、ワークショップ、観察会などを開催した。

巡回展、移動博物館・移動美術館、出張美術教室は県下18会場で実施し、延べ3,105人が参加した。また、普及講座や講演会は年間を通して119回開催し、延べ3,062人の参加があった。

中でも美術の普及講座では、「毎週土曜はアートの日！」と題し、毎週土曜日に美術に関する普及事業を実施し、アートにふれあう機会を充実させた。

また、博物館施設案内リーフレットのデザインを一新し、来館者にとってより分かりやすいものとした。

#### (5) 来館者サービス

昨年度に引き続き開館時間を次のとおり延長し、来館の機会を広げた。

- 4月1日～10月31日の特別展示の期間中の土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日は午前9時～午後7時

さらに、当館初の試みとして、美術分野の企画展の際に託児サービスを実施した。冬季の企画展であったこと、また周知期間が短かったこと等により、利用者は少なかったが、今後の来館者サービスの一層の向上へ向けた有意義な取組となった。

## 2 各課の概況

### (1) 総務課

- ・運転監視及び設備保全業務の外部委託開始に伴う設備係の定員減
- ・収蔵スペース確保事業（3カ年）2年目
- ・ホール照明のエコ改良（照度アップと省エネ）
- ・エレベーター及び玄関ホールバトンの改修並びに第3展示室のタイル張替え

### (2) 学芸課

#### ●自然担当

- ・企画展の開催：「シーラカンスーその進化と大陸移動ー」
- ・棚田耕吉植物標本整理事業（3カ年）2年目

#### ●人文担当

- ・企画展「海と生きる ～海から見た江戸時代のとっとり～」
- ・歴史民俗常設展示室改善充実事業（鷗尾レプリカ製作）
- ・鳥取県の歴史民俗事象調査事業（鳥取県内の狛犬）
- ・藩政資料整備事業（14カ年）6年目
- ・収蔵資料修復事業（因幡錠・象嵌大刀・絵図）

#### ●普及担当

- ・各種広報活動の実施
- ・公式HPの管理運用

- ・ 移動博物館、移動美術館の募集及び調整
- ・ 学校教育支援事業の開催
- ・ ニュースレター「MUSEUM PRESS 鳥取県立博物館ニュース」No. 10, 11の発行

●山陰海岸学習館

- ・ 展示リニューアル事業の実施（4月24日にリニューアルオープン）
- ・ 山陰海岸ジオパークの魅力を学ぶ野外観察会および自然講座の開催・充実

(3) 美術振興課

- ・ 以下の3本の企画展を開催した。
  - 「楊谷と元旦 ー因幡画壇の奇才ー」
  - 「生誕100年 彫刻家 辻晋堂展」
  - シリーズ 鳥取の表現者 File. 02「イラストレーター 毛利彰の仕事」
- ・ 2階近代美術展示室では、「生誕100年 尾崎悌之助展」、「前田寛治 ー絵と言葉ー」、夏休み企画「展覧会でみるアートカルタ」、「橋本興家 日本の城 併設：新収蔵品コーナー」の4本のテーマ展示を開催した。
- ・ 1階美術展示室では、展示室を4つの区画に分けて、鳥取県を代表する江戸時代から現代までの作品を年間を通して紹介することを基本として常設展示を開催したが、「君野コレクション展」と題したテーマ展示も開催した。
- ・ 年間を通じて毎週土曜日に美術普及活動を展開する「毎週土曜はアートの日！」（サタデーアートフィーバー）を本年度も実施し、ワークショップ、アートセミナー、アートシアター、ギャラリートーク、企画展関連事業等を通して美術に関する教育普及に努めた。